

## こもれび学級

### 自立活動

単元名 「チャレンジしよう！ ～人生ゲーム 帯小バージョン～」  
令和6年 1月25日（木）2校時  
児童 こもれび学級1組 1年生6名 2年生2名  
場所 こもれび学級1組  
授業者 T1阿曾 直哉 T2大島 丈

#### 1. 単元について

##### (1) 学級の児童の実態

こもれび学級1組には個々の特性によって学習に向かうこと自体が難しい児童や、集中の持続が難しい児童、人との関わり方に課題がある児童などが在籍している。また、境界知能の児童や学習障害の傾向が強く出ている児童も在籍している。

これらの特性により学校内の各場面で、失敗をしたり、不適切な行動をとったり、投げ出したり、パニックになったりすることが頻繁に見られる。これらの種々の困難を改善していくことで、積極的に集団学習に参加できたり、対人関係を良好に過ごすことができ、成長する機会や場面の増加や、楽しい学校生活を送ったりすることが期待される。

本単元では、子ども達がより良く学校生活を送れるようにするため、自立活動の内容以外にも、日生、国語、算数、学校のルールやマナーなどの内容を取り入れている。

##### (2) 研究との関わり

研究主題を受け、本学級では、自己肯定感を育みながら、安定した人間関係の形成をもとに、児童が互いに成長しあえる基盤を作っていきたいと考える。本学級における自立活動の学習においては、**仮説1「児童の教育的ニーズを把握し、実際に応じた課題設定や適切な支援をすることで意欲的に学習に取り組む、生活に必要な力が高まるだろう。」**及び**仮説2「様々な人と関わったり、関わり方を学んだりすることで、自己理解につながったり自己肯定感が高まったりして、よりよく生活しようとすることができるだろう。」**を受けて、以下の目指したい児童の姿を設定する。これにより、児童にとって生活に必要な力が育まれることにつながると考える。

##### <目指したい児童の姿>

- ①自分の良さや成長に気付き、意欲をもって様々な活動に取り組むことができる子ども。
- ②友達と関わり合いや協力しながら、学習を進められる子ども。

実際の生活場面  
(生活に必要な力)

本単元においても、集団自立活動という学習形態の中で、「積極的に活動すること」、「自己理解を深めること」、「他者と適切な関わりをもつこと」の3つを目指し、個々の実態に応じた比較的難易度の低い課題に取り組みさせることで、挑戦するということへの心のハードルを下げ、様々なことに挑戦していける子供を育成したい。

「挑戦→失敗→成功→成長→意欲→挑戦」という正の連鎖が、自己肯定感を高め、社会に出たときに自分の力や他者の支援を得ながら困難な社会を切り拓いていけるような人間を育てていくことに繋がっていくと考える。

#### 2. 単元の指導目標

- ①種々の課題に取り組むことができる。
- ②自分の成長や変化に気付きくことができる。
- ③友達の取り組みを応援したり、称賛したりすることができる。

#### 3. 単元の評価規準

目標①の評価規準	目標②の評価規準	目標③の評価規準
<ul style="list-style-type: none"><li>・意欲的に課題に取り組む。</li><li>・教師や周りの言葉掛けにより取り組む。</li><li>・自分の興味のある物だけ取り組む。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の成長に対して自発的に肯定的な発言（表情）がある。</li><li>・他者からの言葉掛けで、自分の成長に気付き、肯定的な発言（表情）をする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達の取り組みに対して、積極的に応援や称賛をする。</li><li>・他者の言動を参考にして、友達の取り組みを応援する。</li><li>・友達の取り組みに興味をもつ。</li></ul>

4. 単元の指導計画（全2時間 本時 2/2）

時数	学習活動	目標
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通し</li> <li>・ゲームのルールや、友達への声掛けを知る。</li> <li>・各課題への取り組み方を知り、取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームのルールを理解することができる。</li> <li>・友達への好ましい声掛けを知ることができる。</li> <li>・種々の課題に取り組むことができる。</li> </ul>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返り</li> <li>・ルール通りにゲームに取り組む</li> <li>・各課題に取り組む</li> <li>・学習の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種々の課題に取り組むことができる。</li> <li>・自分の成長や変化に気付くことができる。</li> <li>・友達の取り組みを応援したり、成功を称賛したりすることができる。</li> </ul>

5. 本時の指導

(1) 児童の実態と個別目標

児童	児童の実態	個別の指導目標
A 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に活動に取り組むことができる。</li> <li>・他者と穏やかに接することができるが、負けず嫌いな面があり、そのようなときは言動が荒くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・他者からの言葉掛けで、自分の成長に気づくことができる。</li> <li>・他者の言動を参考にして、友達の取り組みを応援する。</li> </ul>
B 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な内容や、苦手だと自分で判断してしまった内容は取り組むことを躊躇する。失敗すると激しく落ち込み、全く活動できなくなる。</li> <li>・友達のことを無意識に笑ってしまったり、誤解を与えるような言葉がけをしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の働きかけにより取り組むことができる。</li> <li>・他者からの言葉掛けで、自分の成長に気づくことができる。</li> <li>・友達の取り組みに対して、積極的に応援や称賛をすることができる。</li> </ul>
C 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に活動に取り組むことができるが、興味のあるものや順番等にこだわりがある。</li> <li>・他者に強い態度をとることが多かったが、現在では穏やかにかかわる姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・自分の成長に自ら気づき、達成感を表出することができる。</li> <li>・友達の取り組みに対して、積極的に応援や称賛をすることができる。</li> </ul>
D 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に活動に取り組むことができるが、失敗したときには、パニックになったり、友達や物に責任転嫁したり、自傷したりする。</li> <li>・特定の友達に対して激しく罵ったりするなど、攻撃的な言動をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・自分の成長に自ら気づき、達成感を表出することができる。</li> <li>・他者の言動を参考にして、友達の取り組みを応援することができる。</li> </ul>
E 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に活動に取り組むことはできるが、苦手な勉強には不安を感じ、周りを見たり、回答等を写したりする。</li> <li>・他者と穏やかに関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・他者からの言葉掛けで、自分の成長に気づくことができる。</li> <li>・友達の取り組みに対して、積極的に応援や称賛をすることができる。</li> </ul>
F 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意な活動と苦手な活動では極端に正反対の言動をとる。</li> <li>・他者に攻撃的な言葉をかけることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の働きかけにより取り組むことができる。</li> <li>・他者からの言葉掛けで、自分の成長に気づくことができる。</li> <li>・友達の取り組みに興味をもつことができる。</li> </ul>
G 児 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な性格であるものの、失敗してしまうと、思考や行動が止まってしまう。</li> <li>・大人がいる場では他者に対して応援したり励ましたりすることができるが、そうでない場では下に見た友だちを煽ることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・自分の成長に自ら気づき、達成感を表出することができる。</li> <li>・友達の取り組みに対して、積極的に応援や称賛をすることができる。</li> </ul>
H 児 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗体験の多さから自分に自信がなく、時折すべてを投げ出してしまふ。</li> <li>・他者に対して励ましたり、優しい言葉をかけることができるが、自分のできることでは時々お節介の様な言動をとることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>・他者からの言葉掛けで、自分の成長に気づくことができる。</li> <li>・友達の取り組みに対して、積極的に応援や称賛をする。</li> </ul>

(2) 目標

- ・種々の課題に取り組むことができる。
- ・自分の成長や変化に気付くことができる。
- ・友達の取り組みを応援したり、称賛したりすることができる。

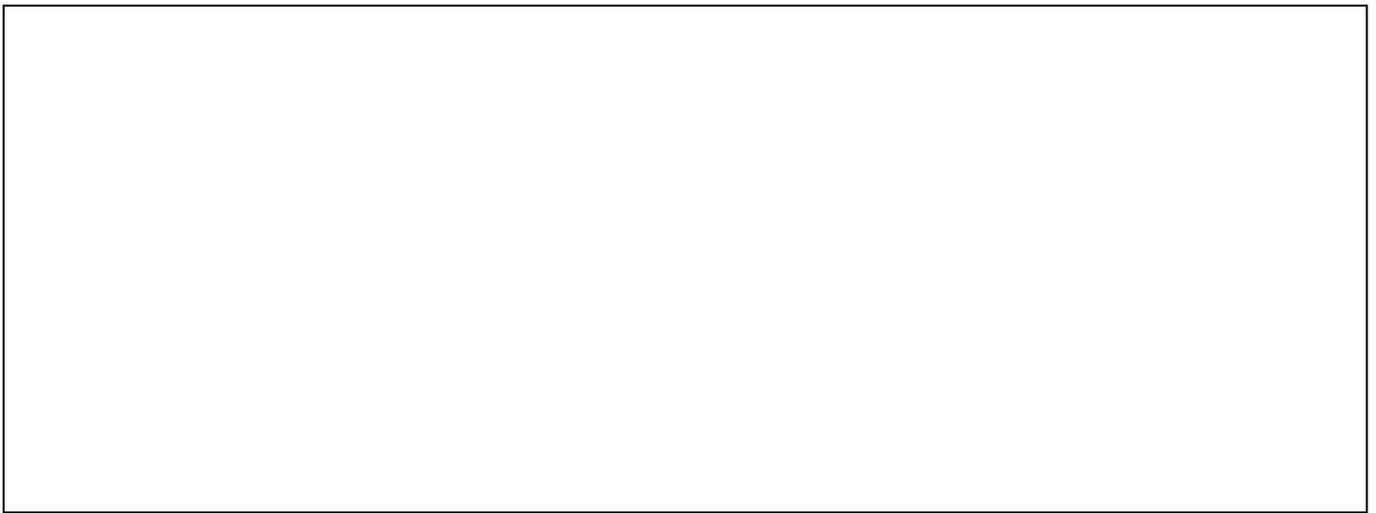
(3) 展開

	学習内容	教師の関わり	◆支援（研究との関わり） ○留意点 □評価 ☆T2の動き
導入	1. 本時の流れを確認 2. 前時の振り返り ・ゲームのルール ・各課題の取り組み方 ・言葉がけの例 ・課題の確認	・前時の内容を復習する。 ・好ましい言葉がけの復習をさせる	○他人を批判したり、侮蔑するような言動は慎むよう、何度も確認する ○気持ちの良い言葉がけとなるように。 ◆取り組む事が大事であることを確認する
展開	3. 「人生ゲーム」 ・ゲームに取り組む ・チャレンジに取り組む ・友達を応援する ・獲得金の確認	・2グループに分かれ、ボードを4人で囲むように座らせる。 ・第1班（児童A, C, E, G） ・第2班（児童B, D, F, H） ・再度、ルールやマナーを確認する ・教員が進行、銀行、ジャッジを行う	☆T1は第1班、T2は第2班を担当する。 ○取り組む児童、応援する児童、それぞれにの特性に合わせた言葉がけをする。 □課題に取り組む直前や最中、事後の発言や表情の変化を観察する □友達の取組を応援したり、賞賛したりできたか。
終末	4. 本時の振り返り ・チェックシートを使い、振り返る。 ・感想の発表	・机間巡視し、児童の振り返りに対して言葉をかける ・数名指名する。 ・今日の学習がどのような場面で必要なのか確認する。 ・今後もチャレンジして成長していくよう促す。	○記述ではなく選択肢を用意する。 □自分の成長や変化に気づけたのか、また、どのような発言をするのか観察する ◆具体的な場面を提示し、児童が挑戦や改善をしていこうとする意欲をもたせる。

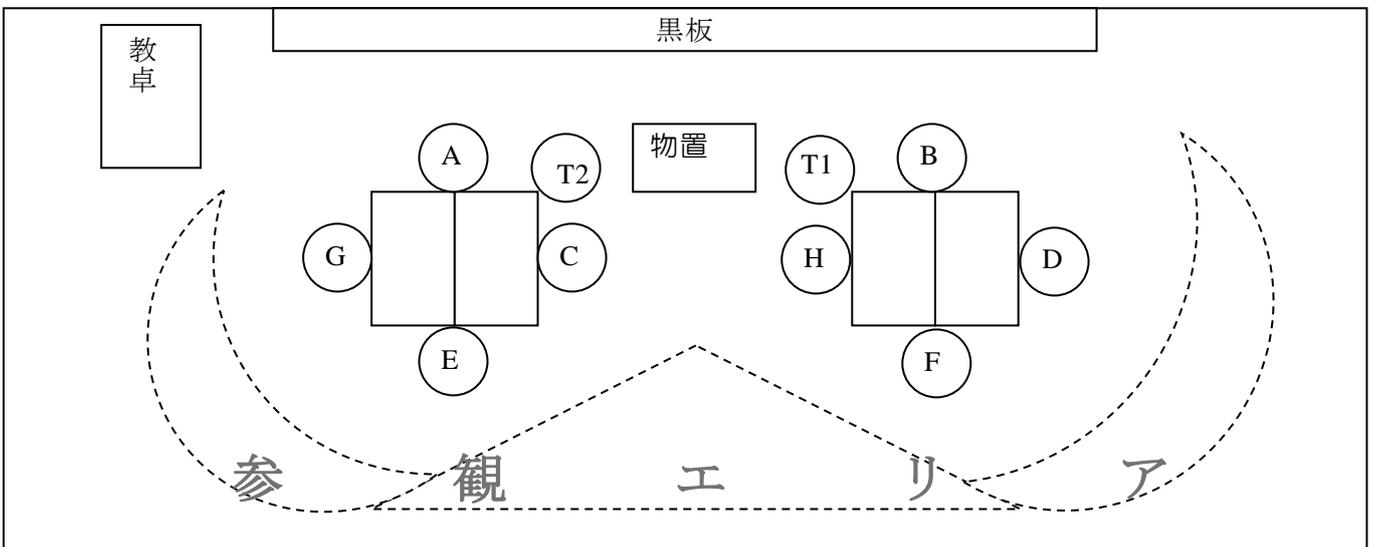
(4) 本時の評価（評価方法）

- ・種々の課題に取り組むことができたか。（観察、チェックシート）
- ・自分の成長や変化に気付くことができたか。（観察、チェックシート）
- ・友達の取り組みを応援したり、称賛したりすることができたか。（観察、チェックシート）

## 6 板書計画



## 7 配置図



## 8 人生ゲーム帯小バージョンについて

### <ゲームのルール>

- ・一人ずつサイコロを振り駒を進める。
- ・止まったマスの金額がもらえる。
- ・チャレンジで止まったら、チャレンジカードを見ないで一枚引き、取り組む。
- ・ストップマスは必ず止まり、教師から渡されたカードに2人でチャレンジする。
- ・チャレンジは取り組むと10000\$、成功するとさらに10000\$貰える。
- ・周りの児童は、応援したり、賞賛したりすると1000\$貰える。
- ・ゴールするか、時間がきたら終了し、合計獲得金額で優勝者を決める。

### <今後の利用について>

- ・授業が早く終わったときや、休み時間などで取り組む。
- ・チャレンジカードの種類を増やしたり、難易度を上げるなどする。

## 9 参観のポイント

- ・準備した教材や教師の声掛けは児童のやる気や興味を引くものだったか。
- ・活動中の児童の顔は良い表情だったか。
- ・くじけた、もしくは、くじけそうな児童は応援されて取り組むことができたか。
- ・授業の最後で児童から、次への意欲を感じさせるような発言があったか。
- ・自分の長所や短所、成長などに気付き、表情や言動に表れていたか。
- ・友達の活動に興味を持ったり、肯定的な言葉掛けをしたりできていたか。

10 個別の課題

児童	児童の困難，課題，弱点	指導内容	区分
A 児	自分の気もちが伝えられない。 状況を説明することが難しい 想像することが難しい 集団での発表が難しい 字を書く時に一字抜けたり，変わったりする		
B 児	記憶に留めておくことが難しい 物事の優先順位がわからなくなる 字をうまく書けない 消しゴムで消すのが難しい 協調運動が苦手 考えて答えることが難しい 足し算は指を使う 字を書く時に一字抜けたり，変わったりする		
C 児	一番や勝敗に強いこだわりがある 突発的に大きな声を出す。 欲しいものや好きなものに執着する 活舌がよくない		
D 児	一番や勝敗に強いこだわりがある 説明中にやり始めてしまう 失敗を恐れて何もできない 行動を途中でやめられない 自分の失敗を人や物のせいにする 暴言が多い		
E 児	足し算は指を使う 苦手なことは不安になり周りの様子を見る。 困っても助けを求められない 想像することが難しい 足し算は指を使う 字を書く時に一字変わったり抜けたりする		
F 児	話が聞けない 物事の優先順位がわからなくなる 協調運動が苦手 字をうまく書けない 自分の興味のあることしかしない 好きなことや頭に浮かんだことをしないと 気が済まない 行動を途中でやめられない		
G 児	話を聞いていないことが多い 記憶に留めておくことが難しい 物事の優先順位がわからなくなる 思ったことを書けない 想像することが難しい 注意されると委縮する		
H 児	話聞いていないことがある イメージしながら聞くのが難しい 物事の優先順位がわからなくなる 字をうまく書けない 協調運動が難しい 説明中にやり始めてしまう 思ったことを書けない 想像することが難しい		

